

協
同

～ブレずにまっすぐ！～

前衆議院議員



小山のぶひろ

氏に訊く

小山展弘後援会報
令和元年
12月1日号

＜編集・発行＞
小山展弘後援会
〒438-0078
磐田市中泉 656-1
TEL; 0538-39-1234
FAX; 0538-39-1235

保育士不足の解消にもっと力を入れよう

数年前、「保育園落ちた、日本死ね」と

いう強烈な言葉が国会で紹介され、共働き世帯の増加・女性就労者の増加等の社会の変化と、保育園や子育て支援施設不足の現状が明らかになりました。そこで、国は保育園や子育て支援施設の拡充に力を入れてきたので、保育園施設というハードは拡充されてきましたが、一方で、保育士が不足しているという問題はあまり顧みられてこなかったように思いました。

現在も保育士が非常に不足しています。

最近も「保育士が児童を虐待した」という事件が発生し、報道もされました。なぜ、園長や同僚の保育士さんたちは、そのような虐待や不適切な指導を止められなかつたのでしょうか？ ある保育園の関係の方は「もし、一人の保育士に辞められれば、保育士が一人減るため、法令上、お預かりできる児童数を削減しなければならなくなります。『児童をお預かりできません、他の施設行つてください』とは言えなかつたのではないでしょうか」と推測していらっしゃいました。保育園施設の拡充に力を入れてきたことは

悪いことではありませんが、ハード面ばかりが注目されてきたきらいがあります。

保育士不足は、保育施設が増えたことだけが要因ではないようです。若年人口の減少の影響もあるうかとは思いますが、保育士を目指す人が減っていることも要因の一つです（幼稚園教諭・保育士の養成校の修学人数が減少しています）。また、どのような職業においてもみられることが、必ずしも養成校を卒業したからと言って、全員が保育士として勤務を継続するわけではありません。保育の現場にきて「どうしてよいのかわからない」という戸惑いや、そこが自分の自己実現の場ではないと感じる人も皆無ではありません。ですから、修学者数の増加が見込まれなければ、保育士不足はなかなか解消されません。

静岡県では「保育士修学資金貸付制度」がつくられました。保育士養成校（大学・専門学校）に在学している学生が、月額5万円の貸付や入学準備金・就職準備金の20万円の貸付を受けられ、その後、保育士業務に5年間従事すれば返還免除になるというものです。このような支援制度について、もつと認知される機会を設けることも、修学者の増加に必要なことだと思います。また、高校在学中から、希望者による保育園や幼稚園でのボランティア実習や職業体験の機会をつくり、保育士への関心を掘り起こしていくことも必要でしょう。

いずれにしても、保育士不足はただちに解消される問題ではありません。数年先を見込んで、さらなる対策を立てていくことが必要です。

前衆議院議員 小 山 展 弘